

持続可能な臨床研究を導く利益相反管理における 徳倫理的アプローチの考察

今泉 聡¹⁾ 三浦伸一郎²⁾

¹⁾ 福岡大学医学部医学系研究生命医療倫理部門

²⁾ 福岡大学医学部心臓・血管内科学

要旨：新規の診断法、治療法や予防法の開発には莫大な資金を要することが多く、企業等から研究費の提供がなければ臨床研究は成り立たない。一方で、産学連携活動が盛んになるにつれ、利益相反（Conflict of Interest：COI）が社会問題化することが多くなってきた。特に2013年に起こったディオバン事件により、産学連携活動に潜むCOIの問題について大きな警鐘が鳴らされた。しかし、その後も資金提供企業が研究データの解析や発表に影響力を行使することを可能とする研究や、新薬の販売促進が目的ではないかと疑われる研究は行われている。そこで本稿では、過去の事例からCOIの問題を確認した上で、現在行われているCOI管理の限界を検討する。そのうえで、持続可能な臨床研究の推進において徳倫理的アプローチからCOI管理を行うことの有用性を明らかにする。

キーワード：研究公正，利益相反，臨床研究，徳倫理学